

★第3回学校協議会の報告★

平成27年2月4日(水)15:00より、平成26年度第3回学校協議会を開催しました。

学校より平成26年度学校経営計画の報告をするとともに、平成27年度計画について意見をいただきました。

☆学校協議会意見のまとめ

●中学校の立場から

私たち教員が、今後生徒たちがどういう大人になってほしいかを考えることが学習内容の精選につながると考える。

公立高校学区制がなくなったことで受験する高校の範囲が本年度より広がっている
ので、広報活動を広域で行う必要があるのではないか。

●保護者の立場から

学校の取組を多面的に知ることができたら、子どもに対する声かけや家庭で教える
ことが良い方向にかわると感じる。

進学先の実績だけでなく、教職員が生徒の進路実現に対して親身になって考えてく
れることがわかるからこそ、生徒は自分の目標や目的を見つけられているように感じ
る。

●民間の立場から

「探究ナビ」はまさに社会において必要な力を身に付けられる授業だと感じる。
探究を生かすためにも家庭での学習を定着し、基礎固めをしてほしい。

また、「探究ナビ」のノウハウを各教科で使うことができれば、学校全体で力がつくのではないか。

●教育センターから

「アクティブ・ラーニング」が定着するなど、ナビゲーションスクールとしての役割を果たしている。

●大学の立場から

2年間通じて良い方向にベクトルが向いている。

また、大和川高校の伝統を受け継ぎつつ新たな文化を形成している。

高校生のうちに様々な体験をすることによって、なりたいものややりたいものを見られる。

最終的には教員のレベルアップが生徒の自己実現や成長につながるのではないか。

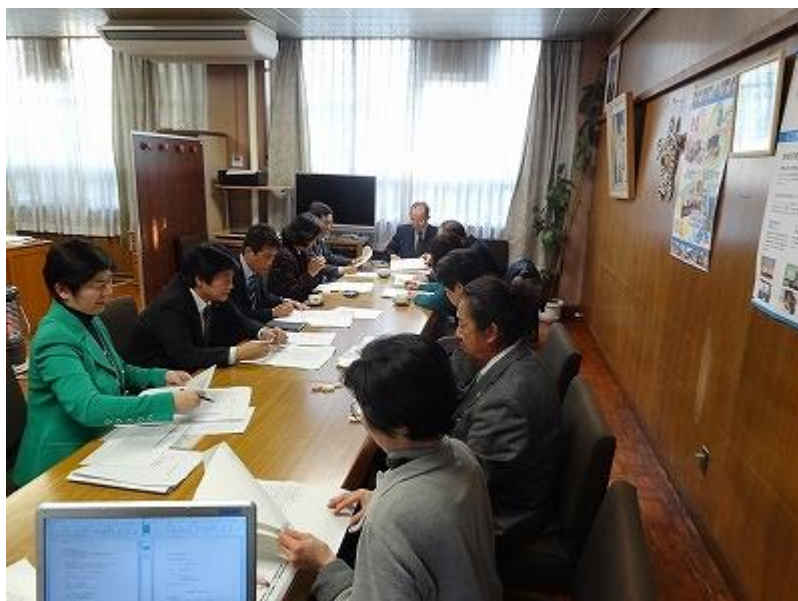
ピンバッジの取組は効果的。

●まとめとして

来年度は教育センター附属高校5周年、うまく活用してより広域に発信していくべきである。

ナビゲーションスクールとして、大阪府全体の教育を担っているという教員一人ひとりの意識が必要など、今年度の取組を評価いただくとともに、今後に生かす具体的な提案と貴重なご意見をいただきました。

最後に校長から、ナビゲーションスクールとしての基盤が確立し、これからは力を発揮していく時期がきていると感じている。今後も宜しくお願いします。と挨拶させていただきました。



平成26年度 学校協議会について

2015.01.26up

第3回 学校協議会を以下の要領で開催します。

- 1 日時 平成27年2月4日(水) 15:00～
 - 2 会場 本校 校長室
 - 3 内容 学校経営計画の報告
-

★第2回学校協議会の報告★

平成26年11月12日(水)15:00より、平成26年度第2回学校協議会を開催しました。

学校より教科書採択について教務部長より、学校経営計画の進捗を首席、数学科主任、養護教諭・初任教諭の実践を通じて報告しました。

☆学校協議会意見のまとめ

●中学校の立場から

生徒・先生をも育てている学校という印象を受ける。

数学の授業の報告から現在の進捗状況を把握することができた。センター附属らしいカラーがでてきている。

●保護者の立場から

近隣の小学校から要望のあった朝の通学状況についても、すぐに行動にうつしてくれ感謝している。

先生方はクラブも勉強も親身になって指導してくれてありがたい。

やっていただいているかと思うが、2・3年生の数学の授業も1年の反転授業のような取組を考えてほしい。

●地域の立場から

高校生は社会に出る一歩前。子どもたちがどういう社会をつくっていくのか期待している。「生きる力」をどう育むのかが課題と考える。各教科が縦割りでなく、教科を総合的に・横断的に絡ませて育ててほしい。

●民間の立場から

探究ナビの商品開発、数学の反転学習の話聞き、自分自身が生徒と一緒に学んでみたいと、非常に興味をもちました。本当に生徒にとってすばらしい実践と考える。

●教育センターから

教育センター附属高校は他の府立高校とは違い、ナビゲーションスクールとして位置付けられている。大阪府の教育課題を解決していかなければならない立場である。4年目にしてナビゲーションスクールとしての道筋がみえてきているように感じる。

今年度は評価研究の2年目、観点別学習評価を全教科で取り入れ、授業改善を図り、これらの実践を附属の先生から夏の教育課程研究協議会で実践発表いただく予定である。

●大学の立場から

教育センター附属高校としての成果がでてきて、全体のまとまりが感じられるようになった。

今年度大学でも「人間力の低下」を防ぐために、1年次対象にアクティブラーニングに取り組んでいる。全教員で担当し、「先生は話してはいけない。自分で学んだ。」というスタンスで、まさに教育センター附属の探究ナビと同じ仕組みである。

話し合いの場を確保するためラーニングコモンズ(話し合いができる机、椅子、空間を提供)を作った。

●まとめとして

ナビゲーションスクールとしての成果がみられるようになったと感じる。一方で、今後果たしてそれがどう評価されるようになるかは、生徒が、保護者が、どう感じるかに関わってくると考えられる。

この学校をつくっているのは現場に立つ、生徒や教員や保護者である。「生きる力」を身に付ける生徒を育てるために、現場で話し合い高めていってほしい。

など、今年度の取組に好評価いただくとともに、今後に生かす具体的な提案と貴重なご意見をいただきました。

最後に校長から、「少しずつではあるが、生徒が変化してきているということを実感することができてきている。外部(朝日新聞記者)から『生徒が数週間の間で成長している』という言葉をいただくこともできた。今後も生徒の成長に注目してほしい。」と挨拶させていただきました。



2014.10.28up

第2回 学校協議会を以下の要領で開催します。

- 1 日時 平成26年11月12日(水) 15:00～
- 2 会場 本校 校長室
- 3 内容 学校経営計画の進捗について

2014.6.13up

★第1回学校協議会の報告★

平成26年5月23日(金)15:00より、平成26年度第1回学校協議会を開催しました。

☆学校協議会意見のまとめ

●大和川高校からセンター附属高校になって

部活動の入部率を上げることが学力を伸ばすことに関わってくると考える。今後も部活動の加入率をあげていくことは大切だ。服装の乱れも少なくなっている。やはり近隣や外部から評価されるので今後も意識していくべきだ。

●昨年との比較

昨年よりも良い雰囲気を感じ、学校のベクトルが見えてきた。各々の取組とその成果が見えるようになった。

●保護者の立場から

学校説明会に参加して、自己表現力を育てる教育など魅力的に感じた。「生きる力」を育むためには教育センター附属だと考え、入学させた。子ども自身、学校行事や部活動に熱心に取り組んでおり、学校に対する愛校心がうかがえる。

●教員に関すること

教員が教科のみ携わっているのではなく、生徒に関わる様々な分野で活動できていることは良い。若手教員も優秀だが、若手教員を指導するベテラン教員が存在する点が良い。

●出前授業

センター附属の知名度がまだまだ低い。さまざまな所に出向いて知ってもらう機会を増やすことをしてほしい。授業内容は「相手のニーズ※1」にこたえることが大切。センター附属のことを知って、センター附属に愛校心をもつ子どもを早い段階で増やしてほしい。

※1<期待される出前授業例…専門分野に関すること(理科の実験など)。部活動の連携。>

●生徒主体の授業

アクティブラーニングや反転授業をより活発的に実施してほしい(反転授業に関しては、数学で実施されている)。そのためにはさらなる環境整備が必要である。

●観点別評価

「意欲」を評価するのは難しい。観点別評価の具体的な方法とその目的を考える必要がある。

●ナビゲーションスクールとして

生徒の進路実現や教員の養成につながるすばらしい取組をしている。探究ナビを中心にそれらの取組を報告書としてまとめるなどして学外に発信していくべきである。

など、今後の教育活動に反映すべき貴重なご意見をいただきました。

さらに、教科書採択について報告させていただきました。

最後に、校長から、「お忙しい中ありがとうございました。“愛校心”が本校の今後のテーマになると感じました。卒業生からも愛されるような学校経営をめざしていきたいと思えます。今後とも宜しく願います」と挨拶させていただきました。



平成26年度 学校協議会について

2014.05.20up

第1回学校協議会を以下の要領で開催します。

- 1 日時 平成26年5月23日(金) 15:00～
- 2 会場 本校 校長室
- 3 内容 学校経営計画について